

みんなで「見える化」を図ろう

理事長 山崎 忠顯

改めて事業の実践にあたり大切にすること、法人の基本姿勢、理念や目的の周知と確認を法人の内、外に対して発信(見える化)する。

【法人の基本姿勢・理念】

信頼と感謝とロマン

『一人ひとりが安心して共に生活できる福祉コミュニティの創造』

～安心と笑顔でつなぐ みんなのしあわせ～

【法人の目的】

『～人間のしあわせづくり～』

地域こそしあわせづくりの原点がある

障害のある人とない人と共に生きられる社会づくり

(第三代理事長 野村 健)

前年度から具体化の検討がはじまり、29年度を目標とする社会福祉法人の制度改革の進捗に伴い、後志報恩会においては制度改革の本旨に則り、利用者さんを中心にした事業のさらなる「見える化」を文字や絵などを基に充実を目指す。

そこで今年度法人の基礎的部分を構成している横、縦軸を再検証し、その目標を明示する。

一つは、「見える化」へのアプローチの具体的実践を行う。このことは利用者・保護者・職員の意識の共有を、さらに地域社会への浸透を目指す。

二つは、その人らしく笑顔で生きる重度の障害や発達障害などをもつ人々の雇用や高齢化生きがいづくり、一生涯の安心づくり、意思決定支援の尊重。

三つは、職員は、わかりやすい話し方を心がける。難しい言葉や話をやさしい内容にかえて、

やさしく伝える。

四つは、法人のコミュニケーション面談、正規職員・臨時職員・パートなど全職員、約 300 名に対する管理職員による個別面談の継続。1 部実施しているメンタルヘルスを全職員に対して実施検討。

五つは、法人の成り立ち、歴史を共有化することを掲げる。なかでも地域貢献事業のさらなる展開を行う。

六つは、法人の PR 広報、ホームページの内容のさらなる充実と周知を図る。

七つは、法人事務局が幅広い情報を得るための方策としての朝日・毎日・日経・道新・毎日こども新聞の定期購読と管理職員への情報提供。

八つは、以上の事柄を進めるにあたり、法人事務局の選任体制を 1 名増員し、「見える化」を一段と図りたい。

最後に、自然界において虹(希望)は、雨あがりやにわか雨など(困難)、太陽を背にした時に現れることを心の糧として日々の仕事にまい進したい。

(了)